

証信

此多端之證と貯入金帳  
方法擴張の謀に當りて  
未だ年賦の過る條原上  
説明したる實地者より刷  
りて其方安んずる又其地  
方之中より、幹強きもの  
者より其方より發せし  
費之に多博し、格上は  
免し、却て其末点より  
附し、其部分、其際中  
免し、其方より發せし  
未だ其方の、其方の  
況より其方より發せし



先之新出舟船等と

未廿四日の入舟の電

況より之を教へて之を

考へて之を教へて之を

中世の教へて之を

長久寺の古くは河舟

より之を見ると之を止

り習ふると之を教へて

之を教へて之を

二月廿六日 西條 漢

大隈閣下

長子十八日午後四時  
子之元見上止  
可智也子也也  
了如也

二月廿六日 寄書

大隈閣下

大隈伯壽閣下

親展 二月廿六日

本

前島密。

親筆 六号

通信省用紙